テメキュラ市訪問記

7月27日から8月7日の日程で、大山町の姉妹都市であるアメリカのテメキュラ市を中学生7人が訪問しました。交流事業の感想文の一部を紹介します。

名和中　3年　竹村　悠花

テメキュラの第一印象は「きれいだ」ということです。どこに行ってもごみ一つ落ちておらず、日本と同じ、またはそれ以上にきれいでした。芝生が青々としていて緑が多く、建物もおしゃれで「こんな町に住みたい！」とうらやましくなるほどでした。そこでまず驚いたのが、ごみ箱の多さです。テメキュラに限らず、アメリカにはいたるところに多くのごみ箱が設置されていました。「こんなに必要？」と初めは思いましたが、ごみ箱がたくさんあるおかげで、ポイ捨てを見ることは一度もありませんでした。逆にアメリカ人が日本を訪れると、ごみ箱の少なさに不便を感じるそうです。私はもっと日本にもごみ箱が設置されればいいのにと思いました。

テメキュラは福祉制度も進んでいて、ドアの仕組みが車いすを利用しておられる人たちにも使いやすくなっていました。また、トイレのマークが女性は丸、男性は三角で、目が不自由な人たちにも触って分かるようなバリアフリーの工夫がありました。テメキュラは、みんなにとって暮らしやすい街だと感じました。

名和中　3年　入江　公子

4日目くらいからは何となく相手の話していることが分かり、単語も聞きとれるようになりました。聞きとれるようになると、私も「YES」だけでなく、文で返事ができるようになりました。また、私の発音の悪さにより、なかなか伝わらない事もありましたが、ジェスチャーを使いながら自分の言いたいことが伝わったときは嬉しくなりました。これらの経験をとおして、発音の大切さを改めて感じました。

現地では日に日に自分のホストファミリーだけでなく他のホストファミリーとも話す機会が増え、たくさんの人たちと仲良くなりました。現地の人と一緒にいて気付きましたが、みんなとてもフレンドリーでした。特にそう感じたのが、キックボールをしたときです。まだ話したことがない人も、私の出番が終わったらハイタッチを毎回してくれました。こういったフレンドリーなところは、日本人よりもアメリカ人がいいなと思いました。相手が気軽に話しかけてくれたので、人見知りの私でもすぐにコミュニケーションを上手くとれるようになりました。

大山中　3年　馬田　大志

僕がこの12日間のアメリカ研修で一番重点的に学びたかったことは「日本とアメリカの衣食住の違い」についてでした。行く前からそのことを意識した研修になるようにと準備を進めてきたのですが、実際に自分の体で感じ、目で見てみると、考えていたよりもたくさんのことを学んで帰って来ることができました。

その中でも一番僕が驚いたのは、部屋を使っているときはドアを閉めて、使っていないときは開けておくということです。改めて冷静に考えてみると当たり前だと思うけれど、日本で生活しているときには、そこまで厳しく気を付けていませんでした。アメリカはその点、日本と違って自分で一人になれるときと、誰かと接しているとき、つまり、プライベートのときとプライベートではないときの境界がはっきりしているのかなと思いました。

大山中　2年　宮長　里実

私がアメリカに行って好きだなと思ったところは「Thank you.」の多さです。何かをもらったら「Thank you.」と言うし、褒められても「Thank you.」、お店で買ったものを受け取るときも「Thank you.」と必ず言います。日本でも言っていると思っていたけれど、実際聞く言葉は「すみません」だったり「でも、○○ですから」